

未来に向かって 一人ひとりが輝く北っ子！

「人の値打ちをはかるものさしはない」清原隆宣さん(西光寺住職)

12月10日(火)、校外人権学習として、6年生が奈良県の水平社博物館へ出かけました。

「人の世に熟あれ、人間に光あれ」の水平社宣言が生まれた地での学習です。出発後、バスの中で、水平社宣言を作るにあたって中心となった西光万吉さんの生い立ちを紹介したDVDを観て学び、現地到着後は、彼の生家、西光寺で講話を聴きました。午後からは水平社博物館を見学、人権を学ぶ1日になりました。西光寺で、西光万吉さんの弟の孫にあたる清原隆宣さんから人権についての「ものさし」の話を聴き、その思いは、6年生の心にしっかり届いたようでした。以下は清原さんの講演の中からの抜粋です。

私たちはたまたま人間に生まれた。たまたまこの地に生まれた。サルから見て「人は人」、人から見て「サルはサル」。これは「自然のものさし」。人はサルを見て「どこのサルや?」とは言わない。人は人を見て「どこの人や?」と言う。人は「まちがったものさし」を作っている。「人の値打ちをはかるものさし」はない。今も差別はある。SNS上で、またトイレの落書きなどで。

みんなにしてほしいことは、「まちがったものさしを見つける」「見つけたら、見て見ぬふりをせず声をあげる」「人の命を大切にする」この3つ。「人間は尊敬すべきもの」、これが水平社のものさし。できないことがあってもよい。あるがままにまるごと認め合う。人には名前がある。世界中どこにもない一つだけの花。自分を好きになってほしい。



西光寺の本堂で懸命にメモしています。

清原さんは、大病を患い半身に麻痺が残る中、熱意を持って「ものさし」のお話をしてくださいました。子ども達はその思いを受け止め、懸命にメモを取り聴き入っていました。自治振興会様のご協力により子ども達がこのような機会を得ることができましたこと、深く感謝致します。ありがとうございました。

ふるさとの輝き～このまちとともに～



昨年から、音楽会の最後に、丹波市の歌「このまちとともに」を全員で歌っています。私は特に2番の歌詞の中の、「春のかわそいの桜 夏の夜に光るほたる 夕陽浴びきらめく稲穂の秋 雪解けまつ冬 こんなにもそばにある 何気ない宝物さ」がとても好きです。まさに幸世そのものです。

この歌は、丹波市豪雨災害の時に、復興にボランティアで来られたことがきっかけで、丹波市に移住された、秋山知美さんが作詞されました。丹波市で生まれ育ち、ずっと生活している私には、本当に見慣れた何気ない風景や人との関わりが、実はかけがいのないものであると、歌うたびに気づかされます。将来この地にいても、また、遠くこの地から離れても、今日、みんなで歌ったこの歌を、ふるさと幸世とともに思い出してくれればと願いながら、そして北小の子ども達や先生方が一生懸命歌っている姿に心震えながら指揮をさせていただいています。

保護者の皆様、地域の皆様、今年も本校の教育活動にご協力いただき、本当にありがとうございました。来年も変わりないご支援をよろしくお願い致します。